



# 安全データシート(SDS)

## FOODLUBE® 多目的潤滑スプレー

発行日: 2014-10-22

改訂日付: 2016-06-01

バージョン: R0003.0001

### 1. 化学製品および会社情報

#### A. 製品名

- FOODLUBE® 多目的潤滑スプレー

#### B. 製品の勧告用途と使用上の制限

- 用途 : 潤滑剤  
 - 使用上の制限 : 所定の用途以外に使用しないこと

#### C. 製造業者/供給者/流通業者情報

- 製造者情報
  - 製造元/供給元 : ROCOL
  - 住所 : ROCOL House Swillington Leeds LS26 8BS ENGLAND
- 供給者/販売者情報
  - 供給元/販売元 : 株式会社ITWパフォーマンスポリマーズ & フルuids ジャパン
  - 住所 : 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町30-32
  - 担当部署 : 品質管理部
  - 電話 : 06-6330-7118
  - FAX : 06-6330-7083

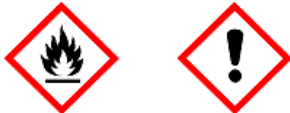
### 2. 危険有害性の要約

#### A. GHS分類

- 可燃性エアゾール : 区分1
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 区分2

#### B. 予防措置文句を含む警告表示項目

##### ○ シンボル



##### ○ 注意喚起語

- 危険

##### ○ 危険有害性情報

- H222 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
- H229 高压容器: 熱すると破裂のおそれ
- H319 強い眼刺激

##### ○ 注意書き

###### 1) 予防

- P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
- P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- P210 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
- P233 容器を密閉しておくこと。
- P240 容器を接地すること/アースをとること。
- P241 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器機器を使用すること。
- P242 火花を発生させない工具を使用すること。
- P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- P260 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- P264 取扱後は取扱部位をよく洗うこと。
- P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
- P281 指定された個人用保護具を使用すること。

###### 2) 対応

- P301+P310 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
- P309+P311 暴露したとき、または気分が悪い時: 医師に連絡すること。
- P314 気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。

- P331 無理に吐かせないこと。

### 3) 保存

- P405 施錠して保管すること。

### 4) 廃棄

- P501 内容物/容器を都道府県/市町村の法令・規則に従って廃棄すること。

## C. 有害・危険性分類基準に含まれていないその他の有害・危険性

### ○ NFPA 等級 (0~4段階)

- 保健: 0, 火災: 3, 反応性: 0

## 3. 組成及び成分情報

- 単一製品・混合物の区別 : 混合物

- 一般名 : 潤滑スプレー

化学物質名	慣用名及び異名	CAS No.	官報公示番号	PRTR法	含有量(%)
石油留分	Petroleum gases, liquefied (TSCA, DSL, EINECS, AICS, ECL, PICCS, ASIA-PAC, NZIoC)	68476-85-7	-	-	75-85
アセトン	Dimethyl ketone	67-64-1	2-542	-	10-20
イソプロピルアルコール	Isopropanol	67-63-0	2-207	-	1-10

\*GHS危険有害性分類対象物質と日本国内法規制対象物質のみ記載

## 4. 応急措置

### A. 眼への接触

- 眼をこすらないこと。
- 大量の水を使用して、少なくとも15分間眼を洗い流すこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。

### B. 皮膚に付着した場合

- 直ちに医師の治療を受けること。

### C. 吸入毒性

- 多量の蒸気やミストに曝露された場合、直ちに新鮮な空気のある場所に移すこと。
- 必要に応じて適切な措置をとること。
- 直ちに医師の治療を受けること。

### D. 飲み込んだ場合

- 嘔吐をすべきかどうかについては医師の助言を取ること。
- 直ちに水で口をすすぐこと。
- 直ちに医師の治療を受けること。
- 飲み込んだ場合、大量の水を飲むようにして嘔吐を誘発しないこと。

### E. 急性および遅延性の主な症状/影響

- データなし

### F. 応急処置および医師の注意事項

- ばく露とばく露懸念時、医学的な措置、助言を求めること。

## 5. 火災時の措置

### A. 消火剤

- 炭酸ガス、ドライケミカル、耐アルコール性フォーム

### B. 使ってはならない消火剤

- 水(炎を拡散する可能性がある)

### C. 特有の危険有害性

- 消火活動の際には有毒ガスが発生するので、煙を吸入しないように注意する。

### D. 特定の消化方法

- 適切な保護具を着用する。防護服を着用していない人を作業場から遠ざける。可燃性のものを周囲から素早く取り除く。爆発のリスクを最小限にする為、霧状の水を使用して容器を冷却する。

### E. 消化を行う者の保護

- 空気呼吸器を含め、必要に応じて適切な保護具(耐熱性)を着用すること。

## 6. 漏出時の措置

### A. 人体を保護するために必要な注意事項

- 風上で作業して、風下にいる人を非難させること。
- 漏出し物質に触れないこと。作業者が危険なく漏れを停止させることができれば停止すること。
- 漏出区域から安全な区域に容器を移動すること。
- 保護具を着用した後、破損した容器あるいは漏洩された物質を処理すること。
- 危険地域を隔離し、関係者外の立ち入りを禁止すること

### B. 環境に対する注意事項

- 漏出物が下水施設、水系に流入しないようにすること。

### C. 浄化方法

- 大量漏出の場合、低い領域を避け、風上に止まること。後日処理のために堤防を築造して管理すること。
- 基準量以上排出時、中央政府、地方公共団体の排出の内容を通知すること。
- 廃棄物管理法（環境省）により処理すること。
- 漏出物質廃棄のため、適切な容器に回収すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### A. 安全な取り扱いのための注意事項

- 容器が空になった後も製品かす(蒸気、液体、固体)が残ることがあるので、すべてSDS、ラベルの予防措置に従うこと。
- 汚染された衣服を作業場から持ち出さないこと。

### B. 安全保管条件

- 漏れないよう、定期的に点検すること。
- 使用しない場合、密閉しておくこと。
- 密閉容器に入れて回収すること。
- 40℃以下の冷暗所で保管すること。

## 8. 暴露防止及び保護措置

### A. 許可濃度

- 日本許容濃度
  - [2-Propanol] : 400ppm, 980mg/m<sup>3</sup>
  - [Acetone] : 200ppm, 470mg/m<sup>3</sup>
- ACGIHの暴露標準
  - [Petroleum gases, liquefied] : TWA, 1000 ppm
  - [Acetone] : TWA, 500 ppm(1188 mg/m<sup>3</sup>) STEL, 750 ppm (1782 mg/m<sup>3</sup>)
  - [2-Propanol] : TWA, 200 ppm (491 mg/m<sup>3</sup>), STEL, 400 ppm (984 mg/m<sup>3</sup>)

### B. 設備対策

- 作業所はできるだけ自動化し、混合、加熱工程等の設備はできるだけ密閉構造にする。取扱場所の近くに手洗い、洗眼設備等を設け、その位置を明示する。
- 適切な全体換気、局所排気装置を用いること。
- 静電気対策の為、装置等は接地し、電気機器類は防爆型を使用する。

### C. 個人防護具

- 呼吸保護
  - 使用前に警告の特性を考慮すること。
- 眼の保護
  - 作業場の近くに洗眼設備と非常洗浄設備（シャワー式）を設置すること。
- 手の保護
  - 適切な保護手袋を着用すること。
- 身体の保護
  - 適切な保護服を着用すること。
- その他
  - データなし

## 9. 物理化学的特性

### A. 外観

--

-性状	エアゾール
-色	白
B. 臭い	溶剤臭
C. 臭気閾値	データなし
D. pH	データなし
E. 融点/凝固点	<-130℃
F. 沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
G. 引火点	-104℃
H. 蒸発速度	データなし
I. 引火性（固体、気体）	データなし
J. 燃焼又は爆発範囲下限/上限	1.8% - 9.4%
K. 蒸気圧	データなし
L. 溶解度	水に可溶
M. 蒸気密度	データなし
N. 比重	<1
O. 水/n-オクタノール分配係数	データなし
P. 自然発火温度	データなし
Q. 熱分解温度	>200℃
R. 粘度	データなし
S. 分子量	データなし

## 10. 安定性及び反応性

### A. 安定性

- 常温・常圧、密閉保管であれば安定

### B. 有害反応の可能性

- データなし

### C. 避けるべき条件

- 直射日光、加熱、火源。

### D. 混触危険物質

- 強酸化剤及び強還元剤。

### E. 危険有害な分解生成物

- 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生するおそれがある。

## 11. 有害性情報

### A. 暴露の可能性が高いルートに関する情報

- (呼吸器)
  - 飲み込んで気道に侵入すると有害のおそれ
- (経口)
  - データなし
- (眼・皮膚)
  - データなし

### B. 有害性

- 急性毒性
  - \* 経口毒性 -
    - [Acetone]: ラットLD50>5000mg/kg (SIDS (1999)); (ACGIH (2001))に基づき区分外とした。
    - [2-Propanol]: ラットLD50 = 5280 mg/kg (EHC(1990)、SIDS(1997))、5500 mg/kg( (EHC(1990)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999))、5480 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994))、4710 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997))、1870 mg/kg (CERIハザードデータ集(1999)) があり、それらの統計計算で求めた毒性値は3437 mg/kg
  - \* 経皮毒性
    - [Acetone]: ウサギLD50>5000mg/kg (ACGIH (2001)), (SIDS (1999))に基づき区分外とした。
    - [2-Propanol]: ウサギLD50 = 12870 mg/kg (EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)、CERIハザードデータ集(1999)) および4059 mg/kg (CERIハザードデータ集(1999)) があり、これらの低い方の値から、区分5とした。
  - \* 吸入毒性 - ATE MIX: データなし
    - [Acetone]: ラットLC50: 32000 ppm (75.8mg/L) (SIDS (1999)) この値は区分4の判定基準の2.5倍 (50mg/L) の範囲外であるため区分外とした。(20℃、アセトンの飽和空気は230000ppmであり、吸入毒性試験は全て蒸気状態で行なわれたとみなす。)

- [2-Propanol]: ラットLC50 (4時間蒸気暴露) = 72600 mg/m<sup>3</sup>(29512 ppm), EHC(1990)、PATTY(1994)、SIDS(1997)および29620 ppm(72865 mg/m<sup>3</sup>) (CERIハザードデータ集(1999))に基づき、いずれもミストを含まない蒸気での暴露におけるppm濃度基準値の区分5の範囲を超えていることから、区分外とした。

#### ○皮膚腐食性/刺激性

- [Acetone]: ウサギ皮膚に対して刺激性なし(EHC 207 (1998)), (SIDS (1999)) の記載より区分外とした。

- [2-Propanol]: EHC 103 (1990)、PATTY (4th, 1994)、ECETOC TR66 (1995)、CERIハザードデータ集(1999)のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なしまたは軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990)のヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さないとの報告から、区分外とした。

#### ○眼に対する重篤な損傷/刺激性

- [Acetone]: 蒸気は人の眼を刺激する。しかし暴露が止まると刺激性は続かない(ATSDR (1994))。ウサギではsevereという結果が報告されている(ACGIH (2001))。角膜上皮は破壊されるが、基質までは至らず、角膜上皮の破壊は4-6日で回復する。アセトンには腐食性の眼刺激性ではない(SIDS(1999))。以上の記述より区分2Bとした。

- [2-Propanol]: EHC(1990)、SIDS(1997)、PATTY(1994)、ECETO TR(1992)、CERIハザードデータ集(1999)のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分2A-2Bとした。

#### ○呼吸器感受性

- [Acetone]: Mouse ear swelling test 及びGuinea pig maximization test でnegative(SIDS (1999))と記載されているので、皮膚感受性は区分外とした。呼吸器感受性はデータがないため分類できない。

- [2-Propanol]: 呼吸器: データなし 皮膚: SIDS(1997)のモルモットでのビューラー法による皮膚感受性試験では陰性であった。一方、EHC(1990)の皮膚炎発症例で2-propanolのバッチテスト陽性例には、低分子の1級または2級アルコール、プロピレンオキシドにも陽性を示しており、2-プロパノールが原因物質か否か明確でないことから、データ不足により分類できないとした。

#### ○皮膚感受性

- データなし

#### ○発がん性

##### \* IARC

- [2-Propanol]: Group 3

##### \* OSHA

- データなし

##### \* ACGIH

- [Acetone]: A4

- [2-Propanol]: A4

##### \* NTP

- データなし

##### \* EU CLP

- [Petroleum gases, liquefied]: Carc.1B

#### ○生殖細胞変異原性

- [Petroleum gases, liquefied]: In vivo試験のデータがなく分類できない。なお、Ames試験 (invitro変異原性試験) の結果は全て陰性である [IUCLID(2000)]。

- [Acetone]: in vivo 小核試験で陰性 (SIDS (1999))、(EHC 207(1998))により、技術上の指針に従って区分外と分類した。

- [2-Propanol]: SIDS(1997)のin vivoでのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であることから区分外とした。

#### ○生殖毒性

- [Acetone]: 疫学調査で流産への影響なし (ATSDR, 1994) という報告がある。ラットの高濃度暴露 (11000ppm (20mg/L)) でわずかな発生毒性 (胎児体重減) (EHC, 207 (1998)) が、マスの高濃度暴露 (6600ppm(15.6mg/L)) で胎児体重減、後期胚吸収率増 (EHC, 207 (1998)) が報告されている。EHCでは、ヒトと動物で更に検討が必要であるとの記載がある。以上のことより区分2とした。

- [2-Propanol]: EHC(1990), IARC(2005), PATTY(1994)のラットでの飲水投与による2世代繁殖試験では、繁殖能および出生子の発育に影響なかった。一方、EHC(1990), SIDS(1997), ACGIH(2003)のラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、吸収胚の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められたとの記述から、区分2とした。

#### ○標的臓器/全身毒性 (単回暴露)

- [Acetone]: ヒトへの12000ppmの暴露で喉の刺激 (ACGIH (2001))、1190、2400mg/m<sup>3</sup>/6hの暴露で鼻、喉、気管の刺激 (EHC 207 (1998))、1000ppm/4hの暴露で喉の刺激 (EHC 207 (1998))の記載より区分3 (気道刺激性)、200mlを飲み込んだ男性に昏睡 (12時間後意識回復)、12000ppm暴露した労働者に頭痛、めまい、足の脱力、失神 (ACGIH (2001))の記載より区分3 (麻酔作用) に分類した。

- [2-Propanol]: PATTY(1994)、ACGIH(2003)のラットでの吸入暴露による活動性の低下があるとの記述、およびACGIH(2003)、CERIハザードデータ集(1999)のヒトでの経口摂取による急性中毒では消化管への刺激性、血圧、体温等の低下、中枢神経症状、腎障害が認められており、標的臓器は中枢神経系、腎臓および全身毒性と判断し、区分1とした。また、ACGIH(2003)のヒトで鼻、喉への刺激性が認められており、気道刺激性があると判断し、区分3とした。

#### ○標的臓器/全身毒性 (反復暴露)

- [Petroleum gases, liquefied]: ラットを用いた90日間の吸入暴露試験 (用量: 1017, 4489 ppm/6h) において、NOAEL=4489ppmとされ、ガイダンスの区分2を超える4489ppmの用量で死亡ならびに毒性影響は観察されていない (IUCLID(2000))。また、21日間の吸入暴露試験(用量: 0.12、1.15、11.8 mg/L/6h (48, 469, 4808 ppm/6h) において、NOAEL=4808 ppmとされ、ガイダンスの区分2を超える4808 ppm(90日換算: 1122 ppm)の用量で死亡ならびに毒性影響は観察されていない (IUCLID(2000)) ことから区分外(吸入)に該当するが、リスト2のデータであり、他の経路の結果もないことから分類できないとした。

- [Acetone]: ボランテアによる試験で500ppm、6時間/日、6日の曝露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貪食作用の有意な減少が観察されている(ACGIH (2001)) ので区分2に分類した。ラット、マウスの試験でもガイダンス上限値を大きく超えた投与量ではあるが、ヒトに見られたと同様な血液学的変化が認められた(SIDS (1999))。その他のラット、マウスの試験(ACGIH (2001))、(SIDS (1999))ではいずれもガイダンス上限値を超えており、ヒトでの報告例も無いので分類根拠として採用しない。

- [2-Propanol]: EHC(1990)のラットでの86日間または4ヵ月間吸入暴露試験で、血管、肝臓、脾臓に影響が認められたとの記述から、標的臓器は血管、肝臓、脾臓であると判断し、区分2とした。なお、区分2のガイダンス値を超える投与量では、腎臓への影響および麻酔作用が認められている。

#### ○ 吸入有害性

- [Acetone]: 動粘性率は計算値で0.426mm<sup>2</sup>/secであり、化学性肺炎の動物データが無いが、C13以下のケトンであることより区分2とした。

- [2-Propanol]: ヒトに関する情報はないが、EHC(1990)、PATTY(1994)のラットでの気管内投与により、24時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略1.6前後であることから、吸引性呼吸器有害性があると判断し、区分2とした。

## 12. 生態学的情報

### A. 生態毒性

#### ○ 魚類

- [Acetone]: 魚類 (ファットヘッドミノー) の96時間LC50>100mg/L

- [2-Propanol]: 魚類 (ヒメダカ) の96時間LC50>100mg/L

#### ○ 甲殻類

- データなし

#### ○ 藻類

- データなし

### B. 残留性と分解性

#### ○ 残留性

- データなし

#### ○ 分解性

- データなし

### C. 生体蓄積性

#### ○ 生体蓄積性

- データなし

#### ○ 生分解性

- データなし

### D. 土壌中の移動性

- データなし

### E. オゾン層への有害性

- データなし

### F. その他の有害な影響

- [Acetone]: 難水溶性でなく (水溶解度=1.00×106mg/L (PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

- [2-Propanol]: 難水溶性でなく (水溶解度=1.00×106mg/L (PHYSPROP Database、2005))、急性毒性が低いことから、区分外とした。

## 13. 廃棄上の注意

### A. 廃棄方法

- 油と水の分離が可能なのは、油と水の分離方法で事前処理すること。

- 焼却して処理する

- 廃棄物管理法上の規定を遵守すること。

### B. 廃棄上の注意

- データなし

## 14. 輸送上の注意

### A. 国連番号

- 1950

### B. 国連輸送固有名

- Aerosols, flammable, (each not exceeding 1 L capacity)

### C. 輸送危険クラス (ES) :

- 2.1

### D. 包装等級

- データなし

### E. 海洋汚染物質

- 該当なし

### F. 輸送上の特定の安全対策及び条件

- DOTおよびその他の規定により包装または輸送すること。
- 火災時の非常措置の種類 : F-D (Flammable gases)
- 流出時の非常措置の種類 : S-U (Gases (flammable, toxic or corrosive))

### G. 緊急時応急措置指針(容器イエローカード)番号

- 126

## 15. 適用法令

### A. 日本国内規制事項

- 消防法
  - 第4類第1石油類(非水溶性液体)
  - \* 危険等級
    - II
- 労働安全衛生法
  - \* 有機則
    - 第2種有機溶剤(1 アセトン、3 イソプロピルアルコール)
  - \* 表示物質
    - 法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号・別表第9(17 アセトン、494 プロピルアルコール)
  - \* 通知物質
    - 法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号・別表第9(17 アセトン、494 プロピルアルコール)

### B. 他の国内および国際法律情報

- 残留性有機汚染物質規制法
  - 該当なし
- EU 分類情報
  - \* 分類
    - [Petroleum gases, liquefied] : F+; R12/Carc. Cat. 1; R45/Muta. Cat. 2; R46
    - [Acetone] : F; R11Xi; R36R66R67
    - [2-Propanol] : F; R11 Xi; R36 R67
  - \* 危険有害性情報
    - [Petroleum gases, liquefied] : R12, R45, R46
    - [Acetone] : R11, R36, R66, R67
    - [2-Propanol] : R11, R36, R67
  - \* 注意書き
    - [Petroleum gases, liquefied] : S53, S45
    - [Acetone] : S2, S9, S16, S26, S46
    - [2-Propanol] : S2, S7, S16, S24/25, S26
- 米国の管理情報
  - \* OSHA規定 (29CFR1910.119)
    - 該当なし
  - \* CERCLA 103 規制 (40CFR302.4)
    - [Acetone] : 2267.995 kg 5000 lb
  - \* EPCRA 302 規制 (40CFR355.30)
    - 該当なし
  - \* EPCRA 304 規制 (40CFR355.40)
    - 該当なし
  - \* EPCRA 313 規制 (40CFR372.65)
    - [2-Propanol] : 該当する
- ロッテルダム協約物質
  - 該当なし
- スtockホルム協約物質
  - 該当なし
- モントリオール議定書物質

- 該当なし

## 16. その他注意事項

### A. 参考文献

- このSDSはKOSHA、NITE、ESIS、NLM、SIDS、IPCSなどに基づいて作成してある。
- GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z 7253
- 危険及び有害性評価は十分ではないので、お取り扱いには十分にご注意ください。
- 本製品安全データシートは当社の製品を適切に使用するために注意する事項を簡単に整理したもので、通常の取り扱いを対象に作成されております。
- ここに記載された内容は現時点で入手出来た情報やメーカ所有の知見に基づいて作成しており、そのデータや評価はいかなる保証をなすものではありません。
- 法令の改訂及び新しい知見により改訂されることがあります。

### B. 作成日

- 2014-10-22

### C. 改訂回数及び最終改訂日

- 4 times, 2016-06-01

### D. その他

- この情報は労働者の健康、環境、安全を保護するため、現在使用可能なDBに基づいて作成してある。